

ビワ



主な加害種：カラス、ヒヨドリ、ハクビシン、タヌキ

ビワは鳥ではカラス、ヒヨドリ、獣ではハクビシンに主に食害される。ヒヨドリは食害痕が残ることが多いが、カラスは果実をもぎ取って持ち去ることが多い。ハクビシンでは吐き出した果皮が落ちていることが多い。アライグマ、テンも飼育個体は食べることを確認した。千葉県では栽培しているビワを最も食害していたのはタヌキで、フンの中から種が出たという情報もある。



加害種：ヒヨドリ

食痕が付いた果実をもぎ取って撮影した。果皮に付いたV字形の痕、および果肉に付いたV字形の切り裂きの大きさから、カラスではなくヒヨドリと判断した。

撮影：吉田



加害種：ハシブトガラス

カラスの場合は小型の果実をもぎ取って安全な場所へ持ち去って食べる 경우가多く、その場合、痕跡は残らない。写真は飼育個体での摂食実験で、食べている途中で回収したもの。大きな嘴でえぐったような痕が分かる。

撮影：佐伯





加害種:ヒヨドリ

食痕が付いた果実を撮影した。ヒヨドリが飛来していたこと、果皮に付いた傷および果肉に付いた切り裂きが細かいことから、カラスではなくヒヨドリと判断した。

撮影:佐伯





加害種:カラス

樹頂近くに、果実をもぎ取られた枝先のみが残っていた(矢印)。ハクビシンには登りにくい枝先であること、カラスの場合は小型の果実をもぎ取って安全な場所へ持ち去って食べることが多いことから、カラスと思われる。

撮影:佐伯



加害種:カラス

ビワの木(写真奥、樹頂部のみが映っている)に隣接する建物の屋上に、果皮と種が散らばっていた(矢印)。カラスの場合は小型の果実をもぎ取って安全な場所へ持ち去って食べることが多いため、カラスと判断した。

撮影:佐伯



加害種:ハクビシン

ハクビシンが噛んで吐き出した果皮。野生のビワの樹下に同様の果皮が多数散らばっていた。

ハクビシンは樹上で実を丸ごと、口の中に入れて咀嚼したのち、皮のみ吐き出すものと考えられる。

撮影:佐伯



加害種:ハクビシン

庭先で栽培しているビワをハクビシンが食べる様子。夜、ビワの木に登り、果実を口でもぎ取って、その場で丸ごと口の中に入れて咀嚼していた。

この後、ハクビシンが吐き出したと思われる皮と種が地面に落ちていた。

提供:飯塚康雄氏



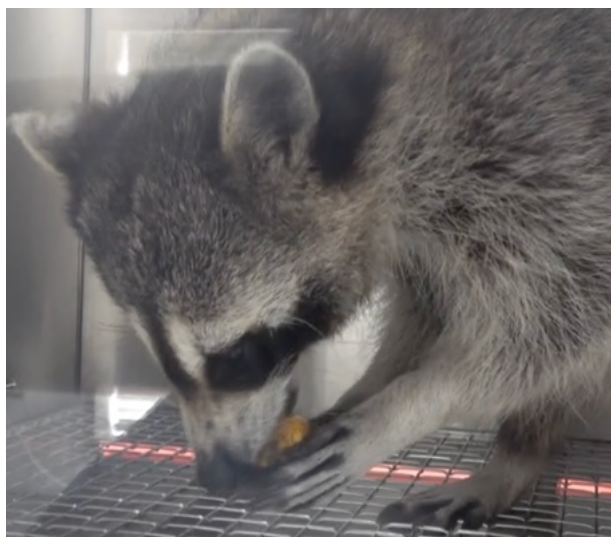
NAROchannel <https://youtu.be/rvYT506YeoU>
で動画を見ることができます。



加害種: テン

飼育しているテン 3 個体に食べさせた。表面に噛み跡が残っている。いっぺんに全てを食べ切ることにはなかった。個体によっては、最初は果実をかじっていたが途中から果実よりも種をかじっていた。皮はほぼ食べてしまうが、残っているものもあった(下の写真)。

撮影: 山口



加害種: アライグマ

飼育しているアライグマ 2 個体に与えたところどちらも食べた。アライグマは前足で実を持って一部を齧り取り、何度も噛んでから皮だけ吐き出した。一度吐き出した皮も、手の届くところに落ちたものは後から拾って食べた。種も口に入れて齧ろうとするが、口からこぼれ落ちてしまった。

撮影: 藤本